

ずっと元気で

中間市立中間南中学校3年 梅本 千史

「腕相撲やるか！」

祖父の家に行くと、いつも祖父は僕に言ってくる。僕の祖父は、前はとても大きくて力が強かった。僕が中学生になり柔道部に入部するといつも「試合はいつか?」「相手はどこの中学の誰か?」と聞いてくる。僕の試合結果を気にしてくれ、勝つととても喜んでくれる。僕のことを大好きだ。僕も祖父のことを大好きだ。中学になってもなかなか腕相撲では勝てない力持ちだ。

しかし、祖父は昨年末の冬の寒い時期に、自宅の2階から階段で転げ落ち、骨折で入院した。普段は「痛い」という言葉は絶対言わないが、この時は痛みと低い声でうなっていた。新型コロナの影響で僕は病院にお見舞いに行くこともできず退院して帰ってくるのを待った。帰ってきたら腕相撲してやると思いながら。

祖父が退院して自宅に帰ってきたが、前みたいに力強くなかった。体は小さくなり、横になっている時間が多くなった。このままでは動けるのも動けなくなると、父と叔母は病院の先生や役場の人と相談していた。祖父は、要支援に認定された。これで社会保障制度の一つである介護保険を受けられるようになったと父から聞いた。ケアマネージャーの方が決まり、何度も祖父の様子を見に来てくれて、どんな支援が祖父に必要なのかを熱心に話してくれた。始めは家の外に出るのを嫌がっていた祖父も「デイリーサービス」に行き始め、運動器機能を高める練習をしているらしい。理学療法士や作業療法士などのリハビリの専門の方々が歩行の練習や階段の上がり降り方、筋力を高める運動をするだけではなく、レクリエーションや食事、入浴などの生活援助サービスもしてもらっていると父から聞いた。昭和十年生まれの八十六歳。新型コロナが落ち着いて、部活の試合を観戦できるようになったら見に来て欲しい。その時がきたら、絶対試合に勝って喜んでもらいたい。それまで、たくさんリハビリして元気でいて欲しい。

僕はよくテレビで、「税金の無駄遣い」という言葉を聞く。色々な人が税金の使い道について意見を言い合い、時にはけんかのように見える場面もあった。本当に、税金は無駄に使われているのだろうか。税金のおかげで祖父は歩けるように練習する場所があり、専門の先生にみてもらい、ずっと寝たきりという危険を避けることができた。税金は無駄ではない。社会で国民の三大義務の一つである「納税の義務」を学習した。義務である代わりに、僕たちはその税金で様々なサービスを受ける権利がある。このことを祖父の件でよく分かった。

「腕相撲やるか！」

今度は、少し手加減してやろうと思う。ずっと僕と腕相撲して、元気な祖父をこれからも見ていきたい。